

都市農村交流推進奨励賞

そねちいきんきょうをまもるかい

曽根地域環境を守る会【栗原市】

本地域は、栗原市の北西部に位置し、水稻を主体とした畜産、施設野菜を取り入れた複合経営と兼業農家である。
農業従事者の高齢化と担い手不足による生産減少が進んでいる。



【組織概要】 活動組織

- ・取組開始 平成19年度
- ・取組面積 95.1ha
(田 95.1ha)
- ・取組活動
農地維持支払活動
資源向上支払(共同)活動

取組にあたって

【課題】

この事業は農家を対象としたものだという先入観にとらわれた考えの方が少なからず居たため、農道、水路、地域の景観は、住民の方々皆が携わらなくてはならないという事を啓発しながら進めてきた。

徐々にではあるが考え方に賛同し、参加してもらうようになった。

【保全管理】

水田の圃場整備後、30数年が経過しているので土地改良区と連携を取りながら軽微な修理、例えば、用水路の目地詰めを実施したり、大規模な修理は土地改良区にお願いしている。



【子供会の生き物調査や清掃活動の様子】



取組の内容

現状の担い手不足は我々自らの積極的な外部への情報発信不足も一因としてあると思っているため、仙台市立荒町小学校5年生に出前授業を行っている。

■都市と農村の交流活動として、仙台市内の小学校に出向き、米ができるまでの作業工程の体験を行っている。土のにおいや泥の感触を直に味わってもらえるように、地元一迫の田んぼの土、一迫の稲の苗を持参し、バケツで稲を育てて観察を行っている。

■春には耕起、代かき、田植、秋には稲刈脱穀、粳すり、精米と農業の大切さ食料のありがたさを教えるとともに、収穫の喜びについての理解を高めてもらっている。

■本物の体験という事で、平成27年度には、実際の一迫の田んぼに来てもらい、稲刈等の体験も実施している。

■農村環境保全活動として、地域住民との清掃活動や植栽活動、子供会との生き物調査などを多岐に展開し、曽根地域の自然や農村環境への理解を深めてもらっている。

取組の効果

地域住民との交流や各活動への参加からコミュニケーションが活発となり、地域が活性化した。積極的な発言は活動の推進力になっている。

また、用水路、排水路、農道の草刈、敷砂利等により地域の景観がよくなった。



【出前による農業体験学習の様子】



【平成27年度には都市部の小学生を招いて活動】